

第5節 景観の中の伝統行事

1 川越し祭

毎年11月第2土曜日と日曜日に、緒方三社の川越し祭りが行われる。かつては旧暦10月14日と15日に執行されていた。緒方三社とは一宮八幡社（一の宮社）と二宮八幡社（二の宮社）、それに三宮八幡社（三の宮社）のことである。

12世紀末の源平期に活躍した武将緒方維栄が、治承2年（1178）に八幡三社を建立したと伝える。伝承では、緒方維栄が平家方の八幡宇佐宮を攻めた時に流れ矢が膝頭に刺さって抜けなくなり、領地である緒方に八幡宇佐宮の分霊を勧請して神社を建立すると誓ったところ、矢が抜けたという。そこで大字大化字宮尾にある元宮と呼ばれる地から、維栄が三本の矢を一度に射て、それぞれの矢が落ちた所に八幡社を建立したと伝える。

一宮八幡社は父である仲哀天皇を祀り、二宮八幡社背後の丘陵上（大字久土知）に鎮座する。二宮八幡社は、子である応神天皇を祀り、原尻の滝に面した丘陵部の麓（大字原尻）に鎮座する。三宮八幡社は緒方川の対岸の少し離れた大字上自在に鎮座し、母である神功皇后を祀る。この祭りは父親と母親が子である応神天皇を祀る二宮八幡社に年に1度集まるのだという。そのため、緒方三宮八幡社の神輿は原尻の滝上流の緒方川を渡る。祭礼の名称「川越し祭り」は、この神輿渡河に由来するのである。

【第1日目】

午後5時半、三宮八幡社では神幸行列の参加者が集まる「お供揃い」がある。午後6時に三宮八幡社の神輿が「お立ち」といって神社を出発する。6時半頃に緒方川近くの宮田に到着。宮田に二宮八幡社から迎えの人たちが来ると、田の中で神輿に向かって神事を行う。神職が祝詞を奏上し、神輿の締め込み姿の輿丁たちに修祓をしてから出発する。二宮八幡社からの迎えが来るまで、三宮八幡社の神輿は、宮田とその先の水田との境の畔を越すことができない。松明をかかげる「火とぼし」の先導で神輿は原尻の滝上の河原に降りてゆく。途中、二宮八幡社の若者たちが加わる。午後7時、花火の合図で三宮八幡社の神輿は原尻の滝の上の緒方川を渡る。鉦と太鼓が激しく打ち鳴らされる。神輿は途中で緒方下井路に入り、緒方川の中に立つ大鳥居をくぐり抜けて二宮八幡社に向かう。

一方、一宮八幡社では午後6時に神輿舎から神輿を拝殿に運び出し、鳳凰を載せ、幕と瓔珞などの金具を掛け、飾り綱などを結んで神輿を飾る。6時40分から神霊遷しをする。7時の花火の



写真1 宮田での神事



写真2 大鳥居をくぐる神輿

合図と同時に一宮八幡社の神輿は二宮八幡社から迎えの人たちと共に出発して二宮八幡社に向かって坂を下りてゆくが、一宮八幡社の神輿は二宮八幡社近くの高台にとどまる。ここから川越しを見守るためだという。7時30分に三宮八幡社の神輿が二宮八幡社に到着する。山門を入った二宮八幡社本殿の石段下の広場で、三宮八幡社と一宮八幡社の神輿とが対面する。両社の神職が挨拶を交わし、神輿の担ぎ棒の先端を触れ合う「出会いの儀式」を行う。まず一宮八幡社の神輿が石段を登って二宮八幡社に入り、次に三宮八幡社の神輿が入る。それぞれ神殿前の申殿に神輿を安置し、神職が神霊を神殿に遷す。それが終わると神殿に向かって右側の拝殿隅に一宮八幡社の神輿を据え、反対側の左側隅に三宮八幡社の神輿を据える。それから緒方神楽社の舞人が、本来は一人立ちの「大神」を二人立ちで舞い、1日目の行事を終了する。



写真3 一宮を發つ神輿



写真4 出会いの儀式

【第2日目】

午後2時、緒方神楽の上演が始まる。二宮八幡社の山門内側の脇に設けた仮設の舞台上で「五方礼始」「平国」「綱伐」「五穀舞」「八雲払」「大神」などの演目を日が暮れるまで舞う。二宮八幡社では、一宮八幡社と三宮八幡社、それに二宮八幡社の神輿に神霊を遷し、午後3時に一宮八幡社、三宮八幡社、三宮八幡社の順で、神輿3基が二宮を出発し、原尻の滝周辺を周り、原尻の滝上のお旅所に向かう。3時半過ぎに仮設のお旅所に神輿3基を安置して神事を行う。向かって右側が一宮八幡社、真ん中が二宮八幡社、左端が三宮八幡社の神輿である。御旅所は原尻の滝直上の右岸にある。御旅所前に三社八幡社の神職たちと緒方神楽社の舞手が座る場が設けられるが、岩盤上に藁を広げ、その上に莫莖を敷く。三社合同の「祝詞」を奏上して、緒方神楽の二人立ちの「大神」が演じられた後、午後4時20分頃から、まず二宮八幡社の神輿が出立し、次に一宮八幡社、三宮八幡社の神輿の順で御旅所を出て二宮八幡社に戻る。二宮八幡社の神輿を申殿に安置



写真5 御旅所の神輿3体



写真6 御旅所で舞う「大神」

して神霊を本殿に遷すと、すぐに神輿を山門片側にある神輿庫に納める。6時半に還御祭（一宮八幡社と三宮八幡社に神輿が戻るための神事）を行う。7時に一宮八幡社の神輿が出立し、二宮八幡社近くの高台で休止する。三宮八幡社の神輿が無事に川越しをするのを見守ってから、一宮八幡社に還御する。三宮八幡社の神輿は、来た時と逆コースで緒方川を渡って三ノ宮八幡神社に向かう。現在は対岸で神輿をトラックに載せて三宮八幡社に帰還する。

鎌倉初頭、大友能直は源頼朝から豊後国の支配を任された。伝承によれば、緒方三郎惟栄の一族だった大野泰基は、朝地の神角寺に籠城して大友能直に抵抗したが、能直の部下の古庄四郎亘能に討たれてしまった。それ以降、奥豊後の地は大友氏の支配を受けるようになる。しかし、その後、原尻の滝での洪水や暴風雨が相次いだ。大友能直は、これは緒方三郎惟栄の祟りではないかと思い、原尻の二宮八幡社に緒方惟栄と大野泰基を合祀し、それを契機に川越し祭りが始まったと伝えられている。しかし、それだけとは思えない。

緒方盆地には条里水田の跡が20世紀後半まで残っていた。緒方盆地では原尻の滝の上流からでないと、条里水田に灌漑用水を取水できない。緒方盆地の主要部は、緒方下井路・緒方上井路・野中井路の3本の水路によって灌漑されている。

一宮八幡社と二宮八幡社は原尻の滝の近くの右岸の丘の上と麓に位置し、三宮八幡社は対岸の左岸丘陵上にあるが、800mほど離れているだけである。緒方三社は緒方荘の守護神として、灌漑の取水口近くに建てられていると考えられる。また、三の宮の神輿がわざわざ川の中を通り、その時に緒方下井路に必ず入ることは、荘園時代から八幡神が水神であり、農業守護神であったからだと思われるのである。

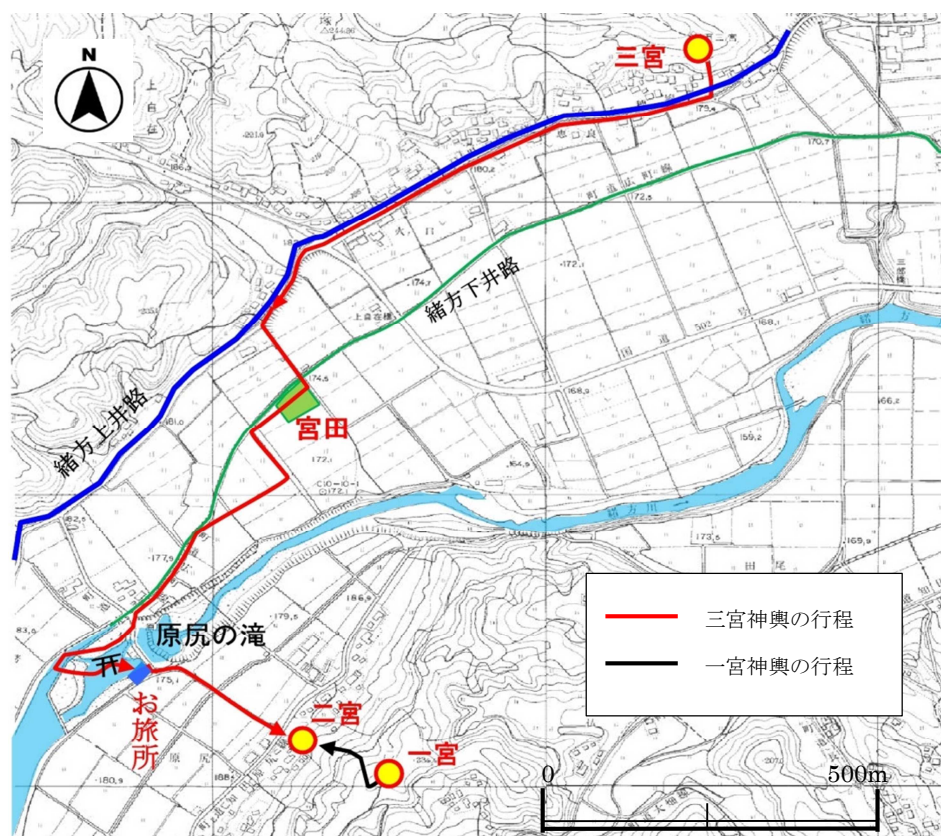


図1 川越し祭りでの神輿の行程

2 小松明火祭り

緒方では毎年8月14日の夜8時から「小松明（こだい）火祭り」が行われ、約300ヘクタールの盆地は見渡す限り幻想的な松明の炎に覆われる。地域の人たちが総出で立てた13,000本のコダイ（小松明）に灯がともるのである。現在の小松明は約1.5mほどの長さの細竹を立て、その最上部に灯油と灯心の入った缶を下げたものだが、かつては松の根を細竹に結びつけたものだった。昔は各家ごとに5～6本の小松明を作り、当日に持ち寄って、水田の畔に2～3m間隔で立てて、日が暮れると太鼓の合図で一斉に点火したという。最近は造形的に凝った小松明を作る地区もあり、競うように、水車や石橋、鳥居、天守閣、大手門、帆掛け船、同心円などの形にする。

この小松明は江戸時代から続いていると伝え、米の豊作を願う虫送りの盆行事である。また、宝暦3年（1753）、虫害等によって凶作となったが、厳しい年貢の取り立てのために一揆が起こった。その一揆のリーダーだった組頭原尻奥之丞は捕らえられ、宝暦9年（1759）に処刑された。小松明火祭りは、原尻奥之丞の供養と虫除けのために始まったと伝えられているのである。

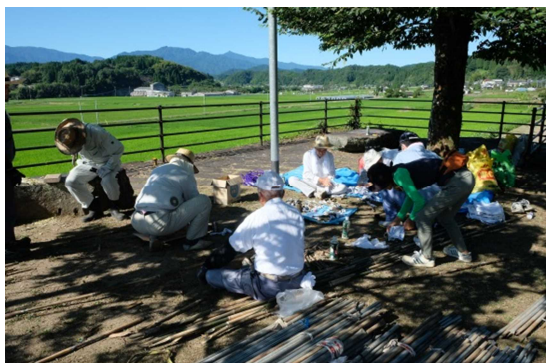


写真7 小松明の準備

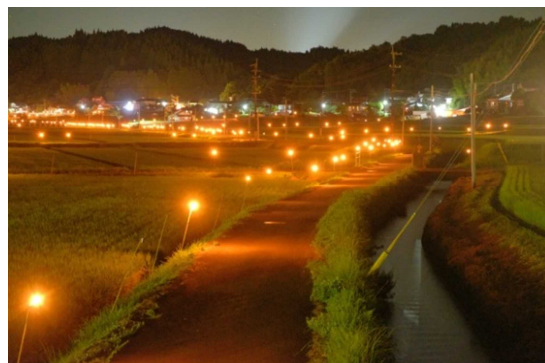


写真8 緒方盆地の小松明（上自在）

3 五千石祭り

毎年、秋の秋分の日（9月23日頃）に緒方小学校の校庭で「緒方五千石祭り」が開催される。緒方盆地とその周囲の15地域の神社の神輿が一堂に会して、五穀豊穰と各家の家内安全と無病息災を願う合同祭である。早朝7時頃から各神社で神事を執行した後、巡幸して会場となる緒方小学校に向かう。校庭に設けられた御旅所に15基の神輿は安置され、昼前に合同神事の執行となる。会場では各地区の獅子舞や白熊練りがあり、緒方神楽を中心とした「出会い神楽」と千盆搦ぎが演じられ、子供神輿、子供獅子舞なども催される。出会い神楽では2基の神楽舞台が仮設され、一方の舞台では御嶽流緒方三社神楽保存会の舞手が神楽を舞い、片一方の舞台では町外や市外から招いた神楽保存会の舞手が神楽を演じる。神事の終わった後、12時から夕方18時まで神楽の競演は続けられるのである。神楽のお囃子の太鼓や笛、獅子舞の太鼓と鉦、白熊練りの唄と拍子木の音、会場はさまざまな音の響きで満たされる。そして夜になると、神輿は各神社に還御して賑やかな五千石祭りは終わりとなる。

緒方五千石祭りに参加する15基の神輿を出す神社と地区（括弧内）を次に紹介する。

一宮八幡社（久土知）、二宮八幡社（原尻）、三宮八幡社（上自在）、大行事八幡社（大化）、朝日社（天神）、熊野社（軸丸南）、軸丸社（軸丸北）、自在社（下自在）、要社（小野）、漆生社・小野崎社（越生 ※二社で1基の神輿を所有し隔年で神輿の世話を行う）、貴船社（知田）、八坂社（野

仲)、井上社(井上)、森園社(馬場)、白明社(野尻)である。この緒方五千石祭りは昭和44年(1969)に始まった行事であるが、その歴史は戦前にまで遡ることができる。昭和5年(1930)、旧緒方村では村民融和と節減のため「緒方村連合祭典」を開催するようになった。旧緒方村7大字(軸丸・上自在・下自在・馬場・井上・越生・野尻)の神社の神輿を馬場の大正公園に集め、各大字で伝承している獅子舞、白熊練りを演じたのである。昭和5年(1930)には南緒方村の一部(大化・新・鮎川・知田)を編入し、19基の神輿が集まるようになり、それを契機により一層盛大に連合祭を行うようになったという。最初は「連合祭」といったが、次第に「五千石祭り」と呼ばれるようになった。戦争中に一時中断したが、戦後復活して現在に至っている。



写真9 緒方神楽 八雲払い



写真10 軸丸獅子舞

4 千盆搗

「千盆搗」は井路(灌漑用水路)の補修作業を芸能化した珍しい民俗芸能である。

昔は3月終わり頃に「イゼブシン(井手普請)」とか「千本搗き」といって、水路の漏水部分の修理をしていた。赤土やタタキ(三和土)で水路の底や側面を塗り固めていたのである。三和土は赤土に消石灰と少量のニガリ(塩化マグネシウム)を混ぜて練ったもので、良く練って叩き締めると硬化する特性がある。しかし、コンクリートとは違って一年経つと補修が必要になる。大正10年(1922)にセメントが入手できるようになると、水路は次第にコンクリートで固められるようになり、千本搗きは見られなくなった。

千本搗きというが、緒方では「千盆搗」と表記する。この「盆」とは補修に用いる練って広げた三和土のことである。修理の時、まず井路の近くの道路に7寸(20cm)ほどの厚さに三和土を広げる。盆は幅約5尺(1.5m)、長さは5間(9m)から(18m)ほどになった。

千盆搗に参加するのは公役としてで、修理する井路の水掛かりの水田を所有する農家の男たちであった。千盆搗では、指揮者を「木遣り」と呼んだ。陣笠を被って陣羽織を着て、白足袋を履き、両手に五色の房のついた采配を持っていた。木遣りと呼ばれたように、唄を歌う音頭取りであった。搗き手は元気の良い若者たちで、頭には鉢巻きを締め、紺の袴纏を着て紺のパッチを穿き、足半を履いていた。

千盆搗では、まず最初に盆に打ち水をする。拍子木の合図で、木遣りが「呼び出し」を歌うと、鍬を持った搗き手たちは素足になって盆に上がり、縦二列に並ぶ。再び拍子木の合図で、木遣りが「耳打ち」の唄を歌い出すと、搗き手たちは鍬で三和土を耕すように切り刻む。「二つ拍子」の唄になると、足で三和土を捻るように練る。続いて「車搗き」の唄では円陣を組んで練る。「肩引き(けんびき)」では優美な踊りのような所作で練る。最後の「辻巻き」では一カ所に搗き手たちが集まって、木遣りを担ぎ上げて「えーい、えーい」の掛け声をあげながら練り上げる。

木遣りの唄は、何を歌うかは作業によって決まっていたが、滑稽で当意即妙なアドリブを入れて笑いを誘い、単調な重労働をする搦き手たちの気を紛らわせ、作業効率を上げることもしていた。練り上げた三和土はモッコで運び、漏水箇所などに打ち付けて補修した。千盆搦は井路の各地で何日もかけて行われた。千盆搦の作業効率を高めるための仕掛けがあった。搦き手たちを競い合わせたのである。最終日の「乱打ち」では、作業の評定が行われ、優秀者には甲札、続いて二番札、三番札、四番札・五番札まで配られた。甲札は18銭、最低が2銭もらえたのである。また、千盆搦には若い娘たちが大勢見物に押しかけ、搦き手の若者たちは張り切らざるを得なかったようだ。しかし、この千盆搦もセメントの普及で廃れてしまった。昭和45年(1970)に千盆搦保存会を結成し、折から始まった五千石祭りで千盆搦の唄と所作を披露するようになり、最近ではおがた井路まつりにも出演している。そして、昭和51年(1976)、「緒方の千盆搦」は大分県選択無形民俗文化財に選択された。



写真 11 千盆搦 (平成 30 年)



写真 12 千盆搦 (昭和 8 年)

5 緒方神楽

緒方神楽は御嶽流の岩戸神楽で、御嶽流緒方三社神楽保存会が伝承している。竹田岡藩領の神楽は大野系神楽として分類された御嶽流、深山流、浅草流の岩戸神楽と上津八幡社の上津神楽があり、臼杵藩領には幣神楽(採物神楽ともいう)の三輪流神楽が成立していた。御嶽流岩戸神楽は豊後大野市清川町宇田枝の御嶽神社で成立した社家神楽であったが、明治初頭に社家が神楽を舞うことをやめ、神楽は地元農民に伝授され、多くの神楽組が成立した。明治期の大野郡楽員会の記録によれば、御嶽流岩戸神楽の神楽組として、豊後大野市三重町の奥畑組、緒方町の平石組と緒方組、清川町の宮迫組と春日組、佐伯市宇目(旧岡藩領)の小野市組と伏野組が存在し、緒方組はその頃から活動していたことがわかる。緒方組は主に緒方町軸丸に住む人たちを中心に構成されていた。御嶽流緒方三社神楽保存会は、緒方川越し祭りや五千石祭りで神楽を舞うだけでなく、緒方町内を中心に各地の神社で神楽を奉納している。また、大正期から昭和期にかけて、正月七日頃から佐伯方面で家祈祷に廻っていたという。昭和52年(1977)に第1回大分県神楽大会で第1位を受賞して注目をあつめ、翌年には33番の神楽をすべて舞い、それを映像で記録作成するという、大野系神楽では初の快挙をなしとげている。33番の演目は次之通りである。

「五方礼始」「天瓊矛(あまのぬぼこ)」「誓約(うけい)」「心化(しんか)」「五穀舞」「忌服屋(いみはたや)」「岩戸開」「神衣織(かむみそおり)」「柴引(しばひき)」「神逐(かむやらい)」「八雲払(やくもばらい)」「神使(かみつかい)」「高御座(たかみくら)」「天孫降臨」「幸換(さちかえ)」「綱伐(つなきり)」「舞入(まいいり)」「平国(へいこく)」「神開(かんばんらき)」「庭火(にわび)」「岩戸舞」「武者」「剣(つるぎ)」「柴入(しばいれ)」「魔払(まばらい)」「手散

米(てざんまい)」「太平楽」「返拝(へんばい)」「朝倉返(あさくらがえし)」「天之注連(てんのしめ)」「地割(じわり)」「荒神」「大神」の33番である。



写真 13 平国



写真 14 綱伐

6 井路まつり

毎年、7月末か8月最初の土曜日に「おがた井路まつり」が開催される。平成12年(2000)に始まった新しい催し物だが、緒方井路土地改良区が水恩祭として始めた行事である。原尻の滝近くの緒方下井路で行われ、最初に井路の修復作業を芸能化した「千盆搗き」が演じられる。次に井路に放流された鮎のつかみ取りが催され、多くの子供たちが参加して歓声を上げる。



写真 15 千盆搗 (『緒方井路水利史より』)



写真 16 井路まつり (『緒方井路水利史より』)

7 緒方音頭

全国で最も普遍的に存在した民俗芸能は盆踊りであったといえる。緒方町では伝統的な盆踊りが今でも伝えられている。「猿丸太夫」「団七踊り」「八百屋」「風切り」「かますか踏み」「二つ調子」「伊勢音頭」「伊勢踊り」「祭文」などである。このような古くから踊られていた盆踊りの演目とは別に、地元をテーマにした新作の盆踊りが作られるようになる。緒方町では「緒方音頭」である。地元の盆踊りでも踊られるが、緒方小学校では運動会で全校踊りとして「緒方音頭」を踊っている。

緒方音頭

さあさあ皆様	皆々様よ	ここが豊後の米所	日本一の緒方米たべりゃんせ。
さあさあ皆様	皆々様よ	ここが豊後の火祭りだ	日本一の原尻滝で踊りゃんせ。
さあさあ皆様	皆々様よ	ここが豊後の酒のんべ	日本一の武将惟栄音頭

第6節 人口動態

1 豊後大野市全体の人口動態

豊後大野市の人口は、1955年（昭和30年）の79,101人から漸次減少し、2010年（平成22年）には39,452人と4万人を割り込み、1955年と比較すると半減している（表1）。近年は4～5%の人口減で推移している。

世帯数は、1955年には14,605戸であったが、徐々に増加し2010年には15,158戸となり、過去最高を記録している。これは核家族化と福祉施設入居者の増が主な要因である。

表2は国立社会問題・人口問題研究所の推計人口と豊後大野市の目標人口である。2015年（平成27年）以降、本市の人口は急激に減少していくことが予測され、2030年には3万人、2055年には2万人を割り込み、2060年位は17,975人（2010年比54.4%）になると推計される。豊後大野市への新たな流入人口の増加をめざして、急激な人口減少に歯止めをかけるまちづくりを展開し、2060年の目標人口を22,822人としている。

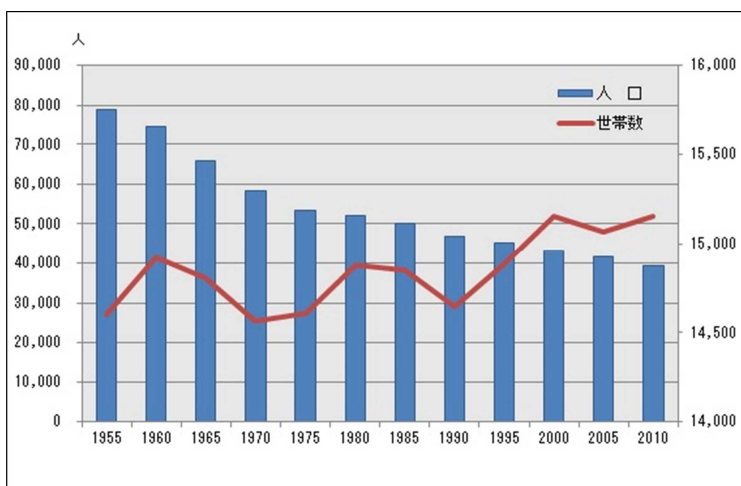


表1 豊後大野市の人口動態

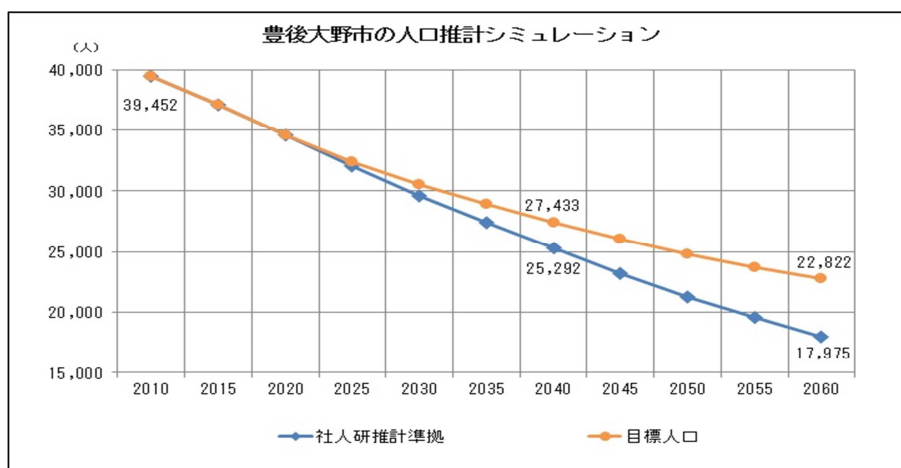


表2 豊後大野市の人口推計シミュレーション

2 緒方盆地の人口動態

表3は、景観選定予定地である緒方盆地の人口動態である。野仲地区以外は全て人口が減少している。野仲地区の人口増の理由は、集落内に一戸建て住宅地が建設され、入居者が増えたためである。令和2年度と平成18年度の人口を比較したとき、野仲集落以外は全て人口が減少している。

集落名	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R02-H18
上年野	75	73	67	65	64	60	60	58	56	52	52	53	51	50	50	-25
小宛	257	255	242	234	220	220	218	211	198	196	193	189	183	175	168	-89
辻	135	130	129	126	120	118	117	124	121	117	109	107	104	103	102	-33
軸丸南	115	116	110	109	109	98	97	94	94	92	89	86	79	77	77	-38
軸丸北	145	145	143	146	145	142	142	141	139	138	135	132	124	120	117	-28
上自在	178	175	178	160	158	158	151	147	152	151	150	134	135	130	136	-42
下自在	714	708	730	732	729	734	725	726	704	689	686	678	669	652	649	-65
馬場	924	909	897	908	903	869	845	825	814	777	773	743	730	712	696	-228
井上	201	209	208	204	203	203	198	194	186	182	182	176	166	157	158	-43
野尻	117	121	121	118	115	113	116	108	107	105	107	105	100	93	88	-29
原尻	190	180	179	172	173	170	172	165	159	157	156	151	149	147	147	-43
久土知	178	175	172	167	167	160	154	156	153	149	145	139	129	126	121	-57
野仲	103	108	126	130	123	115	128	106	111	117	120	121	123	118	114	11
小野	185	177	172	171	165	170	164	164	161	158	155	146	142	138	136	-49
知田	157	162	160	160	165	161	155	152	146	140	135	137	126	121	120	-37
合計	3,674	3,643	3,634	3,602	3,559	3,491	3,442	3,371	3,301	3,220	3,187	3,097	3,010	2,919	2,879	-795

表 3 景観選定予定地の人口動態（平成 18 年～令和 2 年）

表 4 は、景観選定予定地の世帯の動態である。野仲地区以外は全て世帯が減少している。上年野・馬場・原尻集落の世帯減が目立つ。馬場集落は、緒方町域で最も人口が集中する地域であるが、過疎・高齢化により人口減・世帯減が最も目立っている。

集落名	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R02-H18
上年野	31	30	26	25	25	25	25	25	24	23	23	23	23	23	23	-8
小宛	86	88	87	87	84	87	87	87	83	88	87	86	86	84	82	-4
辻	46	46	47	47	46	47	47	50	51	50	49	48	47	46	46	0
軸丸南	33	33	33	33	33	33	33	33	33	34	34	34	34	34	33	0
軸丸北	50	49	48	50	51	50	52	50	51	52	51	51	48	47	47	-3
上自在	61	62	64	61	61	61	59	60	64	64	64	61	63	58	59	-2
下自在	263	262	268	269	274	278	278	281	276	273	274	275	280	270	267	4
馬場	366	365	368	369	368	362	360	358	352	350	355	351	351	343	333	-33
井上	72	74	74	74	75	76	75	74	73	73	73	71	68	67	69	-3
野尻	45	47	48	48	48	50	52	49	48	47	48	49	49	49	47	2
原尻	74	72	71	69	67	66	66	65	61	61	60	61	62	63	62	-12
久土知	60	60	61	60	62	62	62	64	63	62	60	61	57	57	57	-3
野仲	38	42	47	46	45	41	44	43	44	44	43	44	44	43	42	4
小野	62	61	59	58	59	60	61	62	62	61	59	57	58	58	56	-6
知田	62	63	61	62	64	64	65	68	64	64	63	63	57	56	56	-6
合計	1,349	1,354	1,362	1,358	1,362	1,362	1,366	1,369	1,349	1,346	1,343	1,335	1,327	1,298	1,279	-70

表 4 景観選定予定地の世帯数（平成 18 年～令和 2 年）

3 緒方盆地の高齢化率

表 5 は、景観選定予定地域の高齢者数・高齢化率等を示した表である。高齢者世帯の割合は、平均で 50.4%、高齢化率は平均で 48.4%という高い率である。人口減・世帯減は、そのまま農業後継者の減少を意味し、今後、水利や地形条件の悪い圃場では耕作放棄地が増え、水田景観の現状維持が困難になることが予想される。

行政区名	①+ 世帯④+ ⑤	うち高齢 者世帯 (①=②+ ③)	高齢者 世帯割 合(%)	高齢 者一人 暮らし②	高齢者 世帯③	高齢者 を含む世帯 ④	その他 世帯⑤	人口	男	女	高齢 者数	男: 高齢者	女: 高齢者	高齢化 率(%)	うち65歳 ~74歳 高齢者数	男: 65 歳~74 歳	女: 65 歳~74 歳	うち75 歳以上 高齢者 数	男: 75歳 以上	女: 75歳 以上	75歳以 上高齢 化率 (%)
上年野	23	14	60.8	5	9	4	5	50	27	23	29	15	14	58	16	8	8	13	7	6	26
小宛	82	55	67	25	30	15	12	170	72	98	116	51	65	68.3	47	22	25	69	29	40	40.6
辻	46	24	52.1	15	9	14	8	102	46	56	58	30	28	56.9	21	15	6	37	15	22	36.3
軸丸南	33	21	63.6	8	13	8	4	77	32	45	48	16	32	62.4	16	7	9	32	9	23	41.6
軸丸北	47	26	55.3	10	16	12	9	118	55	63	61	26	35	51.7	22	11	11	39	15	24	33.1
上自在	59	30	50.8	15	15	16	13	134	61	73	72	30	42	53.8	24	15	9	48	15	33	35.9
下自在	268	106	39.5	59	47	55	107	649	304	345	237	102	135	36.6	98	44	54	139	58	81	21.5
馬場	338	179	52.9	103	76	50	109	702	326	376	334	143	191	47.6	138	64	74	196	79	117	28
井上	69	33	47.8	16	17	17	19	158	61	97	81	29	52	51.3	31	15	16	50	14	36	31.7
野尻	47	25	53.1	17	8	11	11	88	37	51	47	19	28	53.5	18	10	8	29	9	20	33
原尻	62	32	51.6	12	20	18	12	147	74	73	81	39	42	55.2	27	13	14	54	26	28	36.8
久土知	57	31	54.3	21	10	14	12	121	55	66	68	31	37	56.2	26	15	11	42	16	26	34.8
野仲	43	17	39.5	7	10	11	15	115	57	58	42	19	23	36.6	22	12	10	20	7	13	17.4
緒方小野	56	25	44.6	18	7	23	8	138	63	75	69	32	37	50	22	12	10	47	20	27	34.1
知田	56	31	55.3	18	13	15	10	121	54	67	67	26	41	55.4	31	16	15	36	10	26	29.8
合計	1,286	649	50.4	349	300	283	354	2,890	1,324	1,566	1,410	608	802	48.8	559	279	280	851	329	522	29.8

表5 景観選定予定地域の高齢者数・高齢化率

第7節 経済・産業

1 豊後大野市の産業

豊後大野市の市内総生産（2011年）について産業別内訳（表1）をみると、第1次産業が68億円で市内総生産の6.2%を占める。第2次産業は、239億円（21.8%）、第3次産業が755億円（70.3%）である。2011年の市内総生産のうち50億円以上の業種について、本市の構成比が大分県の構成比の何倍であるかを示す特化係数（表2）を見ると、農業が3.38と最も高くなっている。

年度	実額（百万円）				構成比（%）			
	豊後大野市			大分県	豊後大野市			大分県
	2005	2008	2011	2011	2005	2008	2011	2011
市内総生産	112,141	104,836	109,773	4,255,541	100.0	100.0	100.0	100.0
第1次産業	6,689	6,857	6,752	93,470	6.0	6.5	6.2	2.2
農業	5,966	6,024	6,092	69,924	5.3	5.7	5.5	1.6
林業	622	721	610	7,626	0.6	0.7	0.6	0.2
水産業	101	112	51	15,920	0.1	0.1	0.0	0.4
第2次産業	27,875	21,487	23,897	1,196,086	24.9	20.5	21.8	28.1
鉱業	611	388	548	11,103	0.5	0.4	0.5	0.3
製造業	13,820	12,160	12,288	954,934	12.3	11.6	11.2	22.4
建設業	13,444	8,938	11,061	230,049	12.0	8.5	10.1	5.4
第3次産業	76,653	75,045	77,493	2,871,877	68.4	71.6	70.6	67.5
電気・ガス・熱供給・水道業	2,930	3,031	2,575	136,406	2.6	2.9	2.3	3.2
卸売業・小売業	8,110	8,008	9,540	415,277	7.2	7.6	8.7	9.8
金融・保険業	3,372	2,492	2,154	145,217	3.0	2.4	2.0	3.4
不動産業	12,314	11,854	12,251	494,444	11.0	11.3	11.2	11.6
運輸業	4,486	4,267	4,196	177,254	4.0	4.1	3.8	4.2
情報通信業	3,012	3,201	3,285	120,147	2.7	3.1	3.0	2.8
サービス業	19,050	19,166	20,977	833,730	17.0	18.3	19.1	19.6
政府サービス	19,643	19,557	18,333	452,459	17.5	18.7	16.7	10.6
対家計民間非営利サービス	3,737	3,469	4,182	96,944	3.3	3.3	3.8	2.3
小計	111,217	103,389	108,142	4,161,433	99.2	98.6	98.5	97.8
帰属子等	924	1,448	1,632	94,109	0.8	1.4	1.5	2.2

資料）大分県「大分の市町村民経済計算」

表1 市内総生産の推移

就業者数の推移（表 3）をみると、2005 年に 20,317 人から 2010 年の 17,950 人へと 5 年間で 11.7 %減っている。2010 年の産業別内訳をみると第 1 次産業が 3,849 人で全体の 21.4%を占め、第 2 次産業が 3,565 人（19.9%）、第 3 次産業が 10,476 人（58.4%）となっている。業種別では、「農業」が 3,726 人と最も多く、全体の就業者全体の 20.8%を占め、「医療・福祉」が 2,834 人（15.8%）、「卸売、小売業」が 2,318 人（12.9%）、

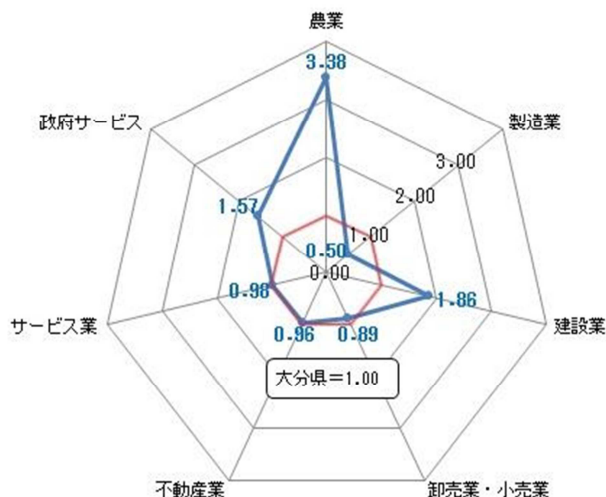


表 2 市内総生産の特化係数

「製造業」が 1,983 人（11.0%）と続き、「農業」「医療・福祉」「卸売、小売業」「製造業」の 4 業種で全体の約 6 割を占めている。緒方盆地だけを抽出したデータがないため、豊後大野市全体の数値を使って、豊後大野市の産業の推移を示した。

年	就業者数（人）			構成比（%）		
	豊後大野市		大分県	豊後大野市		大分県
	2005	2010	2010	2005	2010	2010
総数	20,317	17,950	550,451	100.0	100.0	100.0
第 1 次産業	5,018	3,849	39,813	24.7	21.4	7.2
農業	4,926	3,726	33,765	24.2	20.8	6.1
林業	90	119	1,866	0.4	0.7	0.3
漁業	2	4	4,182	0.0	0.0	0.8
第 2 次産業	4,299	3,565	129,443	21.2	19.9	23.5
鉱業、採石業、砂利採取業	24	7	650	0.1	0.0	0.1
建設業	2,193	1,575	48,814	10.8	8.8	8.9
製造業	2,082	1,983	79,979	10.2	11.0	14.5
第 3 次産業	10,989	10,476	363,194	54.1	58.4	66.0
電気・ガス・熱供給・水道業	49	61	2,618	0.2	0.3	0.5
情報通信業	83	81	6,492	0.4	0.5	1.2
運輸業、郵便業	583	666	25,117	2.9	3.7	4.6
卸売業、小売業	2,735	2,318	89,334	13.5	12.9	16.2
金融業、保険業	219	215	11,824	1.1	1.2	2.1
不動産業、物品賃貸業	33	79	6,709	0.2	0.4	1.2
宿泊業、飲食サービス業	596	648	33,686	2.9	3.6	6.1
医療、福祉	2,431	2,834	73,758	12.0	15.8	13.4
生活関連サービス業、娯楽業	—	570	20,050	—	3.2	3.6
教育、学習支援業	856	738	24,282	4.2	4.1	4.4
その他のサービス業	2,541	1,399	46,582	12.5	7.8	8.5
公務（他に分類されないもの）	863	867	22,742	4.2	4.8	4.1
分類不能の産業	11	60	18,001	0.1	0.3	3.3

資料）総務省「国勢調査」

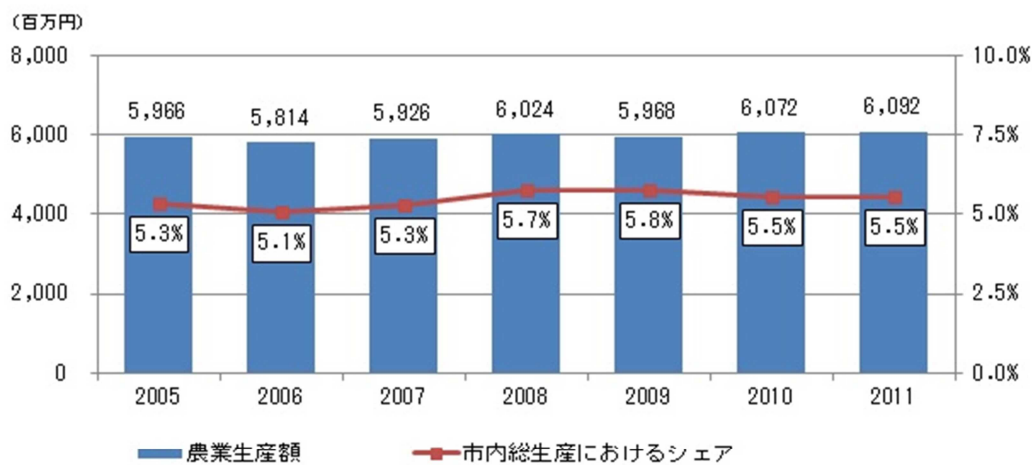
表 3 市内就業者数の推移

2 豊後大野市の農業

豊後大野市は、大野川やその支流緒方川など豊かな水資源を利用した水田地帯や、県内屈指の基盤整備された畑作地帯を有している。稲作、かんしょ、畜産等の生産が行われ、古くから農業を基幹産業として発展してきた。近年は経営の高度化を図るため、ピーマン、ニラ、キク

等の園芸での施設利用や、肉用牛の多頭化が進められている。

農業生産額は、年間 60 億前後で推移している（表 4）。2011 年の農業生産額は 61 億円と、市内総生産の 5.5%を占めている。

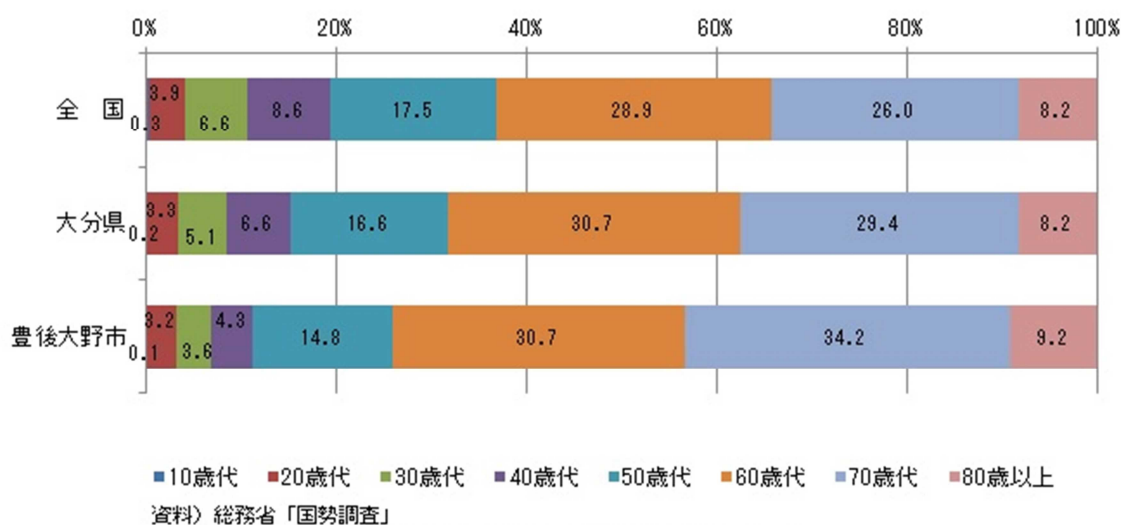


資料) 大分県「大分の市町村経済計算」

表 4 農業生産額の推移

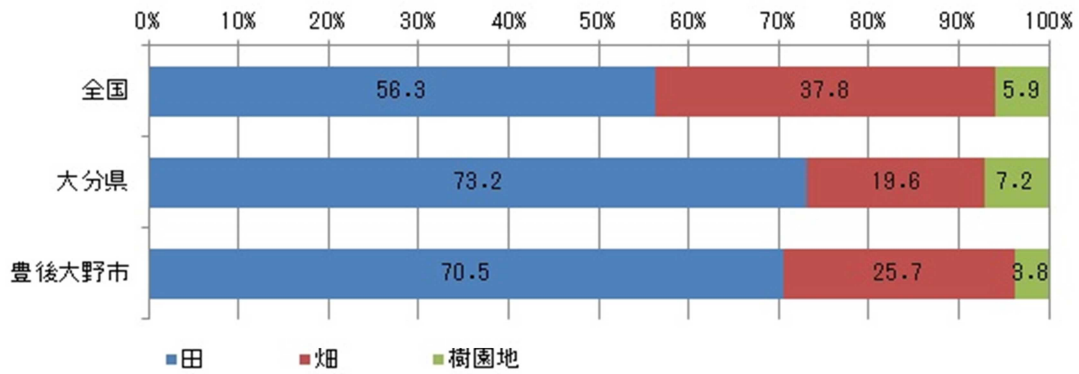
農業生産者の年代別構成（表 5）比をみると、農業就業者に占める 70 歳以上の割合は、本市では 43.4%、大分県では 37.6%、全国では 34.2%であり、本市の農業従事者の高齢化が著しい。

経営耕地総面積は 4,526ha で、田が 3,188 ha と最も大きく全体の 70.5%（表 6）を占める。畑が 1,165 ha（25.7%）、樹園地が 173 ha（3.8%）と続く。経営耕地規模別の農家数の割合は、1.0 ha 以上の経営耕地面積を保有する農家の割合は、全国では 44.9%であるが、本市では 45.8%、大分県では 36.5%である。小規模農家の多い大分県の中では、一定の経営耕地面積を保有する農家が多い。



資料) 総務省「国勢調査」

表 5 年代別農業就業者数



資料) 農林水産省「世界農林業センサス」

表6 田・畑・園地構成比

3 緒方盆地の農業

①豊後大野市の作物植付け面積（町ごとの比較）

表8は、令和元年の豊後大野市（旧町ごと）の作物植付け面積である（主に水田に関係ある作物の一覧）。緒方盆地のある緒方町域を見たとき、主食用水稲面積は5,776,597㎡（577.6ha）であり、豊後大野市全体の32%を占める（表7）。種子生産圃場があるのも緒方町だけである。これは、今日に至るまで多くの井路網により水田が維持されていることを示している。

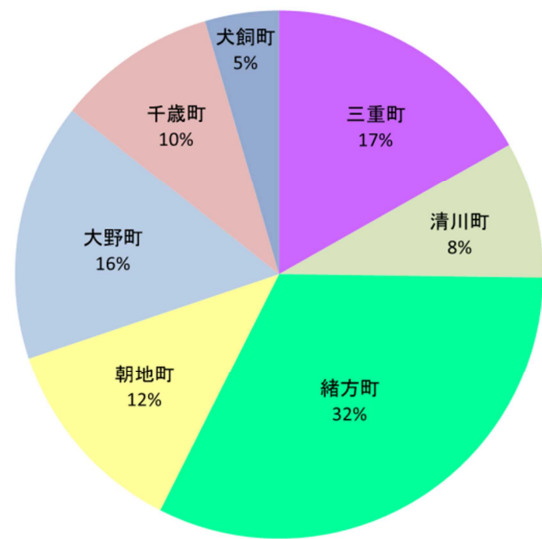


表7 主食用水稲面積の町ごとの比率

町村名	主食用水稲	種子生産ほ	小麦	二条大麦	二条大麦(種子用)	はだか麦	大豆	用大豆(種子)	大豆(黒大)	うもろこし(青刈り)	飼料作物	WCS用稲	飼料用米	そば	加工用米	二条大麦(ビール)
三重町	3,019,348	0	411,416	730,972	0	61,726	549,484	0	0	44,632	517,404	312,264	291,522	1,147	49,153	0
清川町	1,501,611	0	0	592,779	18,973	0	299,861	0	800	0	115,078	51,030	42,596	0	33,767	0
緒方町	5,776,597	111,333	6,653	0	0	2,605	399,705	22,453	6,223	2,746	1,355,457	318,208	102,190	0	229,603	801,532
朝地町	2,224,978	0	0	0	0	0	11,515	0	0	5,183	147,759	133,558	0	4,196	4,383	0
大野町	2,837,170	0	70,204	109,876	0	1,000	129,366	0	747	3,059	390,778	324,534	133,163	0	94,551	39,994
千歳町	1,759,871	0	183,232	527,467	40,773	0	32,057	0	0	0	512,245	283,461	97,236	0	76,887	0
犬飼町	811,906	0	5,380	9,268	0	0	4,122	0	886	11,937	71,033	55,118	0	38,000	0	0
総計	17,931,481	111,333	676,885	1,970,362	59,746	65,331	1,426,110	22,453	8,656	67,557	3,109,754	1,478,173	666,707	43,343	488,344	841,526

表8 作物植付け面積（㎡）

②緒方盆地の作物植付け面積

表9は緒方町域のうち、景観対象予定地域（緒方盆地）の作物植付け面積である。主食用水稻面積の合計は、2,699,661 m² (269.9 ha) であり、緒方町全体 (577.6 ha) の46.7%に達する。これは、緒方町域の中でも特に緒方盆地が水稻栽培に適した場所であることを示している。

地区名	主食用水稻	種子生産ほ場	小麦	二条大麦	用二条大麦(種子)	ル二条大麦(ピー)	はだか麦	大豆	大豆(種子用)	大豆(黒大豆)	こ青刈りとうもろ	飼料作物	WCS用稲	飼料用米	そば	加工用米
上年野	74,866											15,898				
小宛	273,832							2,336		1,740		1,741				10,817
前辻	123,234															
川入	27,912															
年野	14,429															
軸丸南	264,305											90,149	10,563			
軸丸北	127,912							929				192,096	78,008			
上自在	212,903	10,126				81,956		35,277		2,610						18,471
下自在	184,873							2,089						2,233		42,085
馬場	64,037					16,350		519								
井上	167,512	65,621				146,995		44,973			300	68,462	34,075	16,855		37,974
野尻	152,223													17,013		
原尻	174,695					179,123		55,912	16,499					17,453		22,561
久土知	131,807		900									8,200	6,250			
野仲	162,578					55,817				4,869		4,542		3,194		
小野	222,893	10,258														
知田	110,565					71,280		24,039					6,393	67,827		18,752
大化	209,085							852				84,009	20,303			
合計	2,699,661	86,005	900	0	0	551,521	0	166,926	16,499	9,219	300	465,097	155,592	124,575	0	150,660

表9 景観対象予定地域の作物植付け面積 (m²)

③中山間地域等直接支払制度を利用する協定集落

表10は、緒方盆地で中山間地域等直接支払制度を利用している協定者（集落・個人）の一覧と対象面積である。下自在地域は、交付金の対象となる急傾斜地・緩傾斜地があまりないため、対象農用地を所有する農業者が少人数で協定を結ぶ必要がなく、協定者集団が組織されていない。中山間地域等直接支払制度は、条件が良くない水田の維持・環境保全について非常に有効であり、水田景観の維持・保全のためには欠かせない制度である。

協定名称	集個区分	協定参加者総	農業者	生産組織	水利組合	農業生産法人	特定農業法人	非農業者	その他	田(急傾斜)面積(m ²)	田(緩傾斜)面積(m ²)	田面積合計(m ²)	畑(急傾斜)面積(m ²)	畑(緩傾斜)面積(m ²)	畑面積合計(m ²)	協定農用地面積合計(m ²)
上年野	集落	26	26	0	0	0	0	0	0	88,525	62,351	150,876	0	0	0	150,876
牧原	集落	11	11	0	0	0	0	0	0	105,524	0	105,524	0	17,840	17,840	123,364
前辻	集落	24	16	0	0	0	0	0	8	105,498	70,057	175,555	0	0	0	175,555
川入	集落	13	12	0	0	1	0	0	0	49,081	0	49,081	0	0	0	49,081
軸丸南	集落	38	29	0	0	0	0	9	0	341,741	0	341,741	0	0	0	341,741
軸丸北	集落	22	22	0	0	0	0	0	0	200,100	4,056	204,156	0	0	0	204,156
上自在	集落	31	23	0	0	0	0	8	0	83,292	177,928	261,220	0	0	0	261,220
下自在	対象外															0
井上	集落	20	19	0	0	1	0	0	0	68,013	0	68,013	0	0	0	68,013
野尻	集落	33	33	0	0	0	0	0	0	166,197	96,454	262,651	0	0	0	262,651
原尻	集落	41	40	0	0	1	0	0	0	166,314	165,075	331,389	0	0	0	331,389
久土知	集落	35	34	0	0	0	0	1	0	230,751	0	230,751	0	0	0	230,751
野仲	集落	22	22	0	0	0	0	0	0	127,284	109,100	236,384	0	0	0	236,384
小野	集落	47	47	0	0	0	0	0	0	184,736	155,492	340,228	0	0	0	340,228
知田	集落	8	8	0	0	0	0	0	0	34,019	0	34,019	0	0	0	34,019
貴船	集落	31	31	0	0	0	0	0	0	12,595	352,151	364,746	0	0	0	364,746
個人(軸丸)	個別	1	1	0	0	0	0	0	0	46,910	0	46,910	0	2,148	2,148	49,058
合計		403	374	0	0	3	0	26	0	2,010,580	1,192,664	3,203,244	0	19,988	19,988	3,223,232

表10 中山間地域等直接支払制度を利用する集落と協定面積 (m²)

④緒方盆地の県営圃場整備

表 11 は、昭和 47 年～54 年及び平成 13 年～17 年に行われた緒方盆地とその周辺地域の県営圃場整備の実施状況である。

井上地域の大部分では、圃場が広いということで昭和 47 年～54 年の圃場整備は実施しなかったが、近年の農業機械の大型化に農道が対応できず、また水利が入り組み複雑な水巡りであったため、平成 13 年から 17 年にかけて圃場整備が実施された。

これにより農業の機械化に対応できるようになったが、古くから伝わってきた条里型地割がほぼ消滅した。

昭和 47 年～54 年の圃場整備では、圃場枚数が施工前 5,539 枚から、施工後 1,302 枚と約 1/4 に減少し、平成 13 年～17 年の圃場整備では、圃場枚数が施工前 239 枚から、施工後 87 枚と約 1/3 に減少している。

昭和47年～54年の実績

集落名	年次	戸数	施工前 地積(m ²)	施工後 地積(m ²)	施工前 筆数(筆)	施工前 枚数(枚)	施工後 枚数(枚)
越生	昭和47	60	346,976	316,614	377	888	167
下自在	昭和48	78	341,562	300,613	290	636	189
野仲	昭和48	33	166,099	158,494	155	305	76
上自在	昭和49	63	422,673	387,190	408	1046	189
原尻左岸	昭和50	50	126,162	116,737	108	239	68
原尻右岸	昭和51	62	218,555	191,096	263	503	125
小野	昭和52	38	197,350	184,157	193	367	114
知田	昭和52	78	427,477	402,430	358	762	199
井上・野尻	昭和53	62	231,902	210,389	246	507	108
辻	昭和54	27	123,753	114,172	182	286	67
計		551	2,602,509	2,381,892	2,580	5,539	1,302

平成13年～17年の実績

集落名	年次	戸数	施工前 地積(m ²)	施工後 地積(m ²)	施工前 筆数(筆)	施工前 枚数(枚)	施工後 枚数(枚)
井上	平成13-17		***	345,000	238	239	87

表 11 県営圃場整備の状況

第8節 土地利用の状況

1 緒方盆地の土地利用の状況

①緒方盆地を潤す井路網

緒方盆地内の集落は、緒方川上流から下流に向かって、左岸側は小宛（牧原）・辻・原尻の一部・軸丸・上自在・下自在・馬場・井上・野尻集落から成る。右岸側は、上年野・原尻の一部・久土知・野仲・小野・知田集落から成る。また、集落内（景観選定予定範囲）の水田を潤す主な井路は15本に及ぶ（表1）。

図1は、景観選定予定範囲の外から導水される長距離水路と選定予定地の位置関係を示した概要図である。緒方盆地を潤す井路は、主に緒方川を水源としているが、軸丸棚田を潤す富士緒井路は、大野川上流域の支流大谷川に取水口を設け、幹線延長は約15kmに及ぶ。緒方盆地の南部地域を潤す明正井路は、緒方川上流の神原川に取水口を設け、枝分かれした幹線総延長は約48kmに及ぶ。また、柚木井路・長淵井路は緒方川から、上年野井路は徳田川から取水しているが、取水堰はいずれも景観選定予定範囲の外側にある（図2参照）。景観選定予定地内（緒方盆地）の井路網と各井路が灌漑する圃場は図3のとおりである。それぞれの井路が潤す圃場を色分けしているが、これを見ると緒方盆地の水田景観は、複数の井路網により形成された景観であることがわかる。以下に、緒方川上流域から下流域にかけて、集落ごとの景観の特性を記述する。

集落の位置図は、「第1章 第3節 1 文化的景観選定予定地の調査範囲の設定」で、「図2 選定対象予定地の大字・小字位置図」に示している。



図1 河川・井路と景観選定予定区域の概要図

表 1 緒方盆地に関わる井路一覧

番号	井路名	開鑿開始、竣工年等	取水河川名	取水口と末流	延長	選定対象地内の灌漑面積
1	長淵井路	文化年間以前、明治 27 年、牧原・辻まで通水	緒方川	寺原～辻	4.6 km	13.55 ha
2	平瀬（牧原・辻）井路	文久 3 年牧原平瀬に堰堤完成	緒方川	小宛（牧原）～辻	1.9 km	9.33 ha
3	平瀬井路	不詳、昭和 27 年農道改修	緒方川	上年野平瀬	0.8 km	6.7 ha
4	上年野井路	明治 15 年竣工。同 21 年記念碑建立	緒方川支流徳田川	上年野～上年野	1.0 km	2.0 ha
5	柚木井路平瀬分線	明治 31 年起工、同年竣工	緒方川	寺原尾迫～上年野	1.1 km	3.87 ha
6	上年野下井手	不詳	緒方川支流徳田川	上年野集落内	0.3 km	0.3 ha
7	原尻新井路	明治 31 年起工、同 33 年竣工	緒方川	柚木・上年野境から野仲	3.7 km	12.16 ha
8	原尻古井路	正保 2 年竣工か	緒方川	上年野～原尻市穴	2.6 km	17.62 ha
9	三区（野仲）井路	承応 3 年竣工	緒方川	原尻上戸～天神	5.3 km	71.97 ha
10	緒方上井路	寛文元年頃開鑿開始、寛文 11 年馬場より下流を開鑿	緒方川	辻～野尻	幹線 9.5 km	70.53 ha
11	緒方下井路	寛文年間。当初開発は 12 世紀末頃と推定	緒方川	原尻～野尻	幹線 8.2 km	83.19 ha
12	富士緒井路	明治 44 年起工～大正 3 年竣工	大野川支流大谷川	竹田市次倉～緒方町軸丸	幹線約 15 km	128.0 ha
13	明正井路	大正 6 年起工～同 13 年竣工	大野川支流神原川	竹田市入田～清川町天神	幹線約 48 km	7.88 ha
14	南井路	不詳	緒方川支流清田川	久土知集落内宮園地域	0.6 km	2.18 ha
15	唐人井路	不詳	緒方川支流清田川	久土知集落内石仏地域	0.5 km	1.92 ha

※小宛（牧原）の字下平瀬には、牧原・辻と上年野を潤す 2 本の井路の兼用の取水堰がある。上年野地域では「平瀬井路」と呼んでいるが、辻地域では「広瀬井路」「平瀬井路」の呼称が混在している。便宜上、牧原・辻を潤す井路を「平瀬（牧原・辻）井路」と呼ぶことにする。

緒方盆地を潤す井路網

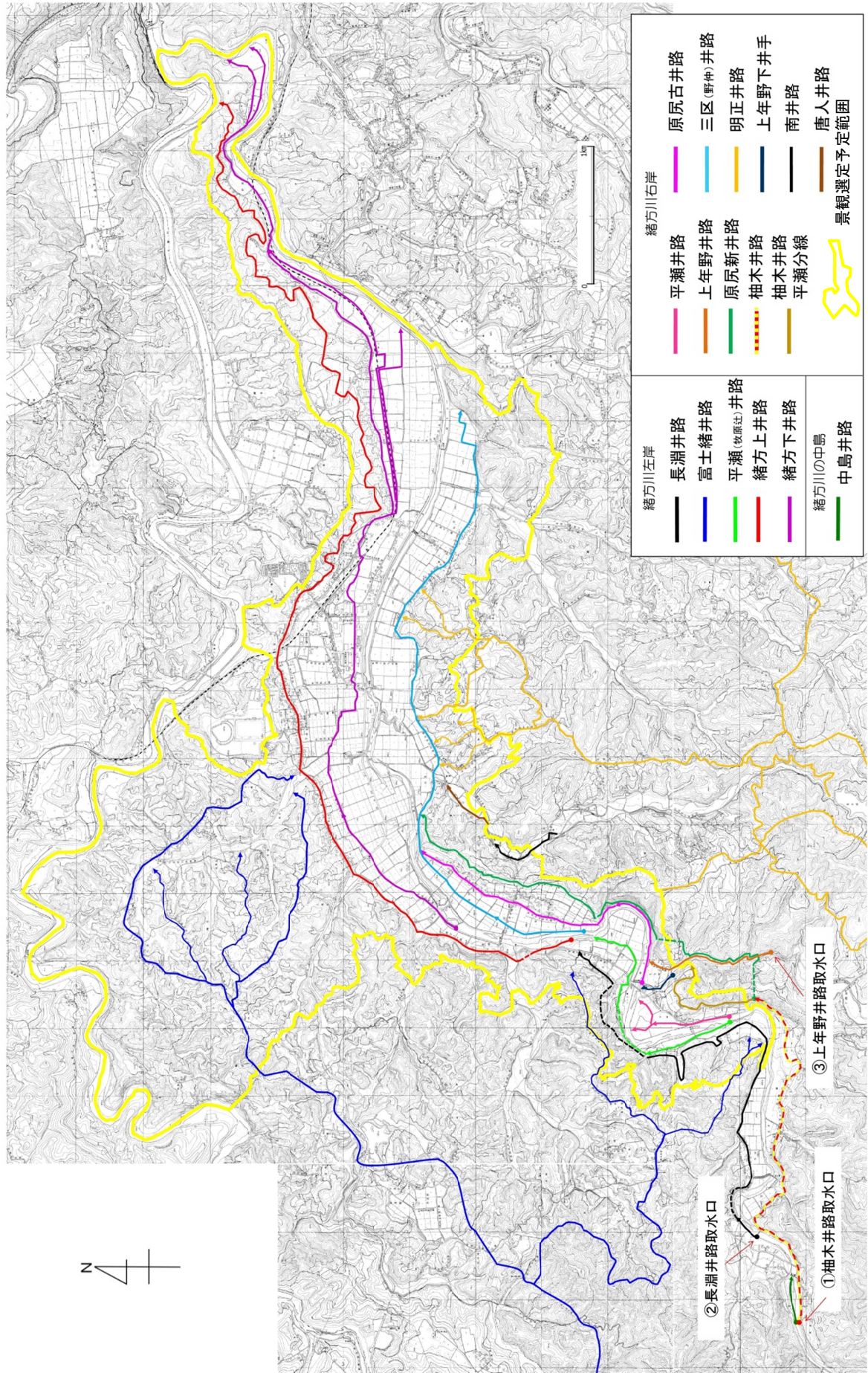


図2 緒方盆地を潤す井路網

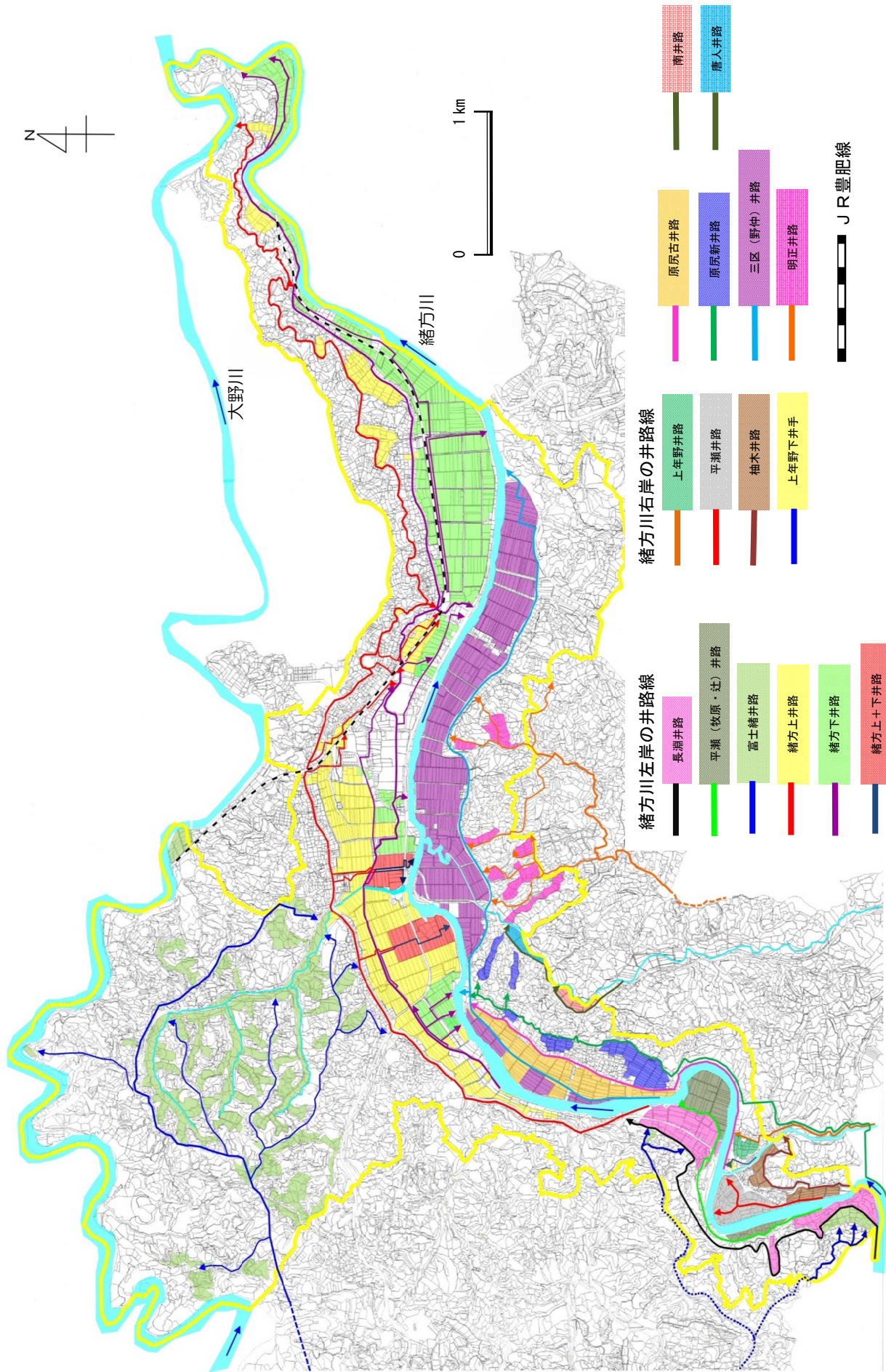


図3 緒方盆地を潤す井路網と灌漑圃場の塗り分け